

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（傾向と対策）

加古川市立東神吉南小学校

I. 各調査の結果と分析（本校の課題）

○国語

全体的な正答率は全国平均とほぼ同程度であるが、「漢字を分の中で正しく活用する」問題に課題が見られた。また、「順序などを考えながら内容の大体を捉える」問題についても、全国等と同様に課題が見られた。

【国語の課題解決のために】

- ・新たに学んだ漢字を用いて、特定のテーマに基づく短文や日記を書く活動を定期的に行う。
- ・物語文で段落に分けて、それぞれの要点を要約する練習を継続して実施する。
- ・説明文の構造を段落ごとに問うことによって、論理的な流れを意識させる。
- ・文章を読んだり、聞いたりした話を、箇条書きで要約させる。
- ・グループ活動で文章の内容について話し合い、順序や論理を整理する力を育てる。

○算数

「図表を読み取り、文章から立式する」問題は、全国平均と比べ高いが、全体的な正答率が全国平均と比べ、やや低い。特に、「割合の意味を捉え、くらべる量が基にする量の何倍であるか考える」問題に課題が見られる。また、理由を選択したり記述したりすることにも課題が見られる。

【算数の課題解決のために】

- ・例題を解き、立式のプロセスを段階的に示す。図表から読み取った情報をもとに、簡単な式を立て、課題を自ら解決する経験を積ませる。
- ・簡単な図を用いて割合の概念を視覚的に整理させる。グラフを活用して「くらべる量」と「基にする量」について、文章を簡単に整理し、説明できるようになる。
- ・自ら考え、課題を把握する時間を十分に確保する。式や答えの理由を文章で書く練習を日常的に行い、問題解答の振り返りと自己評価を習慣づける。

○理科

全体的な正答率は全国平均とほぼ同程度であるが、「電気や電磁石などの、エネルギーを柱とする問題」に課題が見られた。特に、「コイルの巻き数と電磁石の力を関係など、条件を整理し、考察する」問題についても、課題が見られた。

【理科の課題解決のために】

- ・電気や電磁石に代表される、目に見えない領域の基本概念を理解しやすいように、実験を中心に習を進める。実物を用いながら説明し、視覚的にも理解を助ける支援を続ける。
- ・授業を通して、問い・予想・実験・結果・考察の科学的なものも見方や考え方を養う。
- ・予想を書く練習を継続的に行う。実験結果を話し合うことで、条件を把握・整理し、予想と結果を照らし合わせながら論理的に考察する力を養う。

2. 児童質問紙に見られる本校6年生の特徴

※全児童の特徴でなく、そのような特徴を持つ児童が比較的多いということです

- 「自分にはよいところがある」と答える児童が9割を越えている。
- 学校に行くのが楽しいと答えた児童が全国平均を大きく上回っている。
- 「家庭が十分に本を用意してくれている」と考えている児童が全国平均に比べ多い。
- 「地域の大人に勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりする」と答える児童が全国平均を上回っている。
- 「地域や社会をよくするために何かをしたい」と考えている児童が、全国平均を上回っている。
- 児童は、タブレットなどのICT機器を使うことが楽しいと感じており、わからないことを調べたり、写真や動画を使って説明したりすることができると考える児童が多い。
- ▲一方、タブレットを使って、自ら課題を設定し学習を進めたり、伝えたい内容をはじめから自分で作ったりすることに苦手意識を感じている児童がやや多い。
- 国語や算数の学習は将来、社会に出たときに役に立つと考えている児童が全国平均より多い。
- 算数の学習で話し合い活動を十分におこなっていると児童は考えている。
- ▲国語や算数を好きだと考える児童が全国平均を下回っている。
- ▲特に国語について、能力は全国平均を上回っているものの、できないという苦手感が根強い。
- 児童は理科の学習が得意で、好きだと答える児童が多い。
- 観察・実験を中心に、科学的なものの見方が見についていると考える児童も多い。
- ▲科学技術に関する仕事につきたいと考える児童は全国平均を下回っている。
- 保健で学んだことは将来役に立つと感じている。

3. 改善への取組

- 結果や答えだけでなく、そこに至る思考の過程や根拠にも注目させ、根拠に基づいて自分の考えを簡潔に表現する力を養う。また、多様な表現を使うことを通して、自分の理解を深めるとともに、他者へ伝える力を高める。さらに、この過程を通じて、現象や問題の本質を捉え、より深い理解を目指す。
- 他者の話を聞く際は、他者の意見との共通点や相違点を意識しながら要点を押さえ、自分の伝えたいことを効果的に伝えることを目指す。
- 学びと生活がリンクするよう課題設定を工夫し、学ぶことの意図を意識できるよう指導する。
- 特別の教科道徳を中心にすべての教育活動において、「いじめは絶対に許さない」意識を一層育むとともに、自他を尊重し、命を大切にしようとする心情（道徳性）を引き続き養う。
- ICT 機器を使って自分の考えをまとめたり友達の意見を比較・共有したりすることで、機器が学習環境に自然と溶け込む状態を目指す。生徒たちは、ICT 機器に限定せず、様々な表現方法を学ぶ中で、自分に合った方法を選択し、考えを適切に表現できるようになることで、深い学びへと繋げる。